

## 学校運営の基礎

あえて「基礎」とした。

近年、学校経営の戦略化をテーマにしたような研修やセミナーが多くなっている。

意欲的なミドルリーダーや初任管理職等は様々な戦略の構想を持っているようだ。

現場や教育行政がリーダーシップを求めていることからしても良いことだと思う。

以前から、教科、教育工学、視聴覚、部活動等の組織で、校長先生方から、いろいろな場面で多くのことを教えていただいた。

印象に残っていることが3つある。

1つめは、県内1、2の大規模校にいたときの校長先生は、「校長は、学校が進む方向を示せばよい。これだけ大規模だといろいろな意見もあり、大きな船は一気に向きを変えることはできない。」といった。人事の広域異動が始まり、様々な経験を持った幅広い年齢層の先生が集まった。校長の言った言葉はよく理解できた。

2つめは、生徒のきめ細かな指導を必要としていた時期、校長は「どんな時代であろうと心の教育が大切だ。中学校が目指さなければいけない目標だ。」といった。

学力育成、部活動、生徒指導と多くの課題があったが、地域の方を学校へ招き、協力を求め、将来の顧客である、小学校や保育園との連携を図り、多くの活動を行った。

義務教育では大切なことだと思う。

最後は、最も印象に残ることだ。

唯一同僚として働かなかった校長だが、長いつきあいがあった。退職近いころ、土曜日や日曜日に欠かさずやったことを話してくれた。それは、部活動が始まる早朝に校地内のゴミ拾いをしていたことだ。たぶん、安全点検も同時に行っていたのだろうが、せっせとゴミを拾ったそうだ。

教育は、環境が大切であることは言うまでもない。日頃の小さな実践は、巨大な経営ビジョンに負けず劣らずの行動である。

さて、学校現場から離れて4年目になる。明日から学校に戻ることになれば何から始めるだろうか？

やはり、ゴミが落ちてないか、掲示物は乱れてないか、破損場所や危険な場所は無いかの点検であろう。

古い学校であろうが、生徒が気持ちよく1日を過ごせる学校を創ることが一番であろう。